



©ロイター/アフロ

メキシコシティー

市民に資産、会社に利益
両立できるCSRとは

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



メキシコの貧しい住民はコンクリートブロックの家を手作業で建てることが多い。長時間労働の毎日で時間がなく、さらに余財のあるときしか建材を買えないため、1部屋を造るのに4年以上、1軒完成までに20年かかる。

国内最大のセメント会社CEMEXは「パトリモニオ・オイ（今日から資産を）」と呼ばれるプログラムを通じ、低所得世帯の家造りを10年前から支援している。

参加者は近所のサービスセンターで設計・建築のアドバイスを受け、1部屋分のセメントや鉄筋を格安で購入できる。好評なのは工事の間、CEMEXが契約価格を守り、値上げをしない点だ。客が購入した建材は同社の倉庫で保管し、使うたびに配達するので、現場での盗難や無駄を防げる。この方法で工期は3分の1に短縮、コストも3割以上削減された。支払いは週1500円ほどを70回の分割払い。月収3万円程度の低所得世帯でも返済可能だ。3家族1組で参加し、互いに返済資金を融通するため、完済率は99%以上だ。

このプログラムに20万以上の世帯が参加した。同社にも年間1・5億円以上の利益をもたらしている。国際商業会議所などから、数々の賞も受けた。CSR（企業の社会的責任）プログラムは、新たなビジネスライクにもなりうるのである。

【ここは現実、仮想、日常などさまざまな空間を切り取り、お届けするページです】